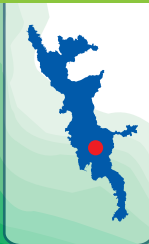


# 乳房山

乳房山の標高は 463m と父島母島で一番高い山です。登りは時計回りが楽で、ゆっくりと観察しながら約 4 時間で周回できます。山頂から母島列島が一望でき、天気良ければ父島も見る事ができます。山頂付近では季節の花々やハハジマメグロなどの鳥たちに歓迎され、眼下に眼を向ければ底が見えるほど透き通った海にイルカやカメやマンタ、冬から春にかけてはザトウクジラの親子連れを見つけることができるかもしれません。

乳房山  
463m



## ■ワダンノキ

固有種。キク科でありながら、独自の進化により樹木になった大変珍しい植物。母島列島にのみ生息します。他に、キク科で木性になる植物は、ユズリハワダン、ヘラナレンなどがあります。ともに個体数が少なく、大変貴重な植物です。  
[花期：10～12月]

## ■ワダンノキ

## ■ハハジマノポタン

長木山

## ■ムニンヒメツバキ

## ■ムニンヒメツバキ

固有種。別名：ローズウッド（ローズウッドの訛り※バラのような花が咲く樹の意）。6～7月頃、島民に最も愛される白い花が斉に開花し乳房山を彩ります。ムニンヒメツバキの甘い香りと落下した花の白いジュータンを是非体感してください。  
[花期：6～7月頃]



## ■ガジュマル

## ■ガジュマル

明治初期に移入され、日陰、防風用に屋敷のそばに植えられました。常緑の大高木で枝より気根を下ろし、巨木に育っています。ガジュマルのトンネルを抜けるとムニンシュスランのジュータンが出迎えてくれます。しばし、古に浸ってください。  
[花期：12～1月頃]



## ■マルハチ

## ■マルハチ

戦時中、不要な爆弾を空中から投下した跡、と言われる大きな窪地にレースの parasol を開いたような木性シダ：マルハチがあります。マルハチの幹を見ると、葉痕が丸く、逆に八の字のように見えることから“マルハチ”と呼ばれています。



乳房山遊歩道

## ■小島の水場

雨の少ない小笠原の貴重な水場です。水皿に水を補給すると小島が寄ってくることもあります。



剣先山 (大剣先)

船木山の滝遊歩道

玉川ダム

珍平山

剣先山 (小剣先)

## ■ハハジマノポタン

固有変種。母島にのみ自生し、花弁は大型で 5 枚あり淡いピンク色の花をつけます。一方、父島に自生するムニンポタンは小型でハハジマノポタンより少し遅れて 4 枚花弁の白い花をつけます。平成 9 年にはボランティアで植栽が行われ、個体数も増えています。  
[花期：7月頃]



# 石門

石門地区は保護、保全のためにルールが設けられています。必ず守ってください。

石門地区は国立公園の特別保護地区で、林野庁東京営林局設定の小笠原母島東岸森林生態系保護地域です。また、東京都と小笠原村の定める自然環境保全促進地域に指定されているので東京都自然ガイド同伴でなくては入林することはできません。



堺ヶ岳への途中に群落があります。和歌山県本宮町の湯の峰で南方熊楠（日本の博物学者、生物学者【特に菌類、民俗学者】が発見したといわれています。乳房山にも小群落があります。



柄ばかり大きくて役にたたないものを喩えて「ウドの太木」と言いますが、この木は腐りやすく材木にも薪にもならないためウドノキという名が付いたようです。大人 3 人でも抱えられないほどの太木が見られます。



固有種。石門の石灰岩地帯にだけ生えている珍しい植物です。茎に沿って小さな黄緑色の花を付けます。  
[花期：4・5月頃]



固有種。石門の森林内に生えている希少種。ウチワのような丸い葉は光沢のある緑色で美しい。環境省が林野庁、東京都、東大植物園の協力により、植え戻しやネズミから守るための保護・増殖をしています。



石門山  
405m

堺ヶ岳  
444m

猪熊谷

猪熊谷 (ビッグベイ)

桑ノ木山  
256m

**!** 東京都自然ガイドとの入林がルールとなっていますので、ルートは記載しておりません。

# 小富士

湿性高木林を主体とした原生性の高い重要な地域で、セキモンノキ、オオヤマイチジク、セキモンウライソウ、タイヨウフウトウカズラ など極めて貴重な母島だけの固有種が生育しています。また、石灰岩地域であるため樹林内に針の岩とされている ラピエ が見られます。

1997年の台風により東岸部の一部が大きく崩落しました。乳房山の頂上展望台からも崩れ落ちた部分が見られます。

## 【自然環境保全促進地域の適正な利用のルール】

1. 東京都自然ガイドの指示に従う。
2. 東京都自然ガイドは、その身分を表示する腕章等を着用する。
3. 定められた経路以外を利用しない。
4. 植物、動物、木片類、石など自然に存在するのはそのままの状態にする。
5. 動物、植物、種子、昆虫などの移入種を持ち込まない。
6. 動物にえさを与えない。
7. 動物を驚かしたり、追い立てたりしない。
8. 岩石などに落書きをしない。
9. ごみは捨てず、すべて持ち帰る。また海へ投棄しない。

**石門入林のルール**

- 利用経路以外は立ち入り禁止。
- 1日当たりの最大利用者数 50人（1回当たり 5人）。
- ガイドひとり当たりが担当する利用者の人数の上限は 5人。

**母島自ルール**

アカガシラカラスパトの繁殖期である 10月から 2月までは入林禁止とし、3月は尾根ルートのみ入林とする。



**セキモンノキ**  
固有種。石門の森林内に生育する植物。葉軸が長く、小さな薄緑色の花を付けます。  
【花期：3～4月頃】

**シマホルト**  
幹にいくつものコブができるのでコブノキとも呼ばれます。石門には樹齢の高いものが多く、見事な板根も見られます。春から初夏にかけて、赤く紅葉した葉を落とします。

乳房山  
463m



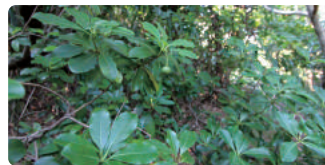
### ①. 都道最南端

母島を南北に縦断している約 13.9km の都道 241 号線の終点です。そしてここが都道の最南端になります。



### ②. 遊歩道入口

ここから遊歩道が始まります。入口付近は母島では珍しい乾性低木林で、ハハジマトベラ、シマイスノキなどが見られます。タコノキとオガサワラビロウの林が南の島の雰囲気をかもし出しています。オガサワラビロウは戦前民家の屋根を葺くのに用いられました。



### ③. ハハジマトベラ群生地

海洋島である小笠原では元の種から分化が起こります。トベラ属は 4 種に分化しました。その中の一種、ハハジマトベラは母島列島だけにしか見られません。白く可憐な花を付けます。  
【花期：1～2月頃】



### ④. 標識板

表示のとおり左へ進むと南崎、右へ進むと万年青浜です。南崎までは約 40分、小富士まで約 1 時間。



### ⑤. 蓮池

以前は池沼でしたが今では雨が降ると湿地になる程度です。戦前繊維作物として移入されたオオサンカクイが見られます。



### ⑥. モクマオウ

南崎遊歩道はモクマオウ（メリケンマツ）、ギンネムの二次林をぬって進みます。モクマオウは明治時代にインドから造林樹木として移入され、今では野生化し大木になっています。外来種として駆除の対象とされています。



### ⑦. 蓬菜根海岸への分岐

遊歩道は沢に沿っていますので充分注意して歩いてください。分岐点にある小鳥の水場にペットボトルの水を入れてあげてください。



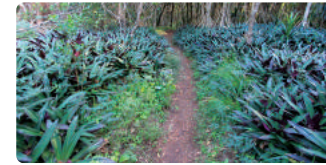
### ⑧. 蓬菜根

分岐から 5 分ほど歩くと海岸に出る。海岸から右方向（北）へ磯伝いに行くと小さな白い砂浜があり、沖の岩が蓬菜根と呼ばれている。磯伝いに歩くこと危険なので、泳いで渡ること。



### ⑨. 摺鉢

赤土が摺鉢状に露出しています。昔、子供達はお尻にオガサワラビロウの葉を敷いて滑って遊びました。今は斜面の下にモクマオウが侵入しはじめています。



### ⑩. ムラサキオモト

古くから観葉植物として栽培されていた植物。オモトとは別種でツユクサ科。葉の裏が紫色で、茎の根元に小さな白い花を咲かせます。戦前出荷用に栽培していたものが群生しています。



### ⑩. ワイビーチ

ホワイトビーチが訛ってワイビーチとなったと言われています。長い階段を下りると文字通りの白い砂浜の海岸に出ます。砂浜の少ない母島では貴重な浜でアオウミガメも産卵のため上陸します。あまり人が訪れないのでプライベートビーチの様です。



### ⑫. 南崎海岸

サンゴ礁が美しく魚類も豊富です。潮の流れが急ですので島（岩）の外では決して泳がないようにしてください。

### ⑬. 小富士

日本一南にある“ふるさと富士”。妹島、姪島などの属島が見渡せ、眼下には南崎の美しいサンゴ礁が広がります。向かいの鯉島では 4～8 月までカツオドリが繁殖しています。日本一早い初日の出を迎える名所となっています。





1「貴重な小笠原を後世に引き継ぐ」

貴重な動植物に恵まれた豊かな自然や、その中で育まれた独自の文化など小笠原の自然や文化について様々なことを学び、これらが後世に引き継がれるように大切にします。

2「ごみは絶対捨てずに、すべて持ち帰る」

小笠原では、日頃から島内美化に務め、また、廃棄車両は島外に持ち出して処分しています。こうした島の人々の努力を見習い、ごみの持ち帰り運動に協力します。

3「歩道はずれて歩かない」

歩道でない場所を歩くと、迷いやすいばかりか、植生を傷めることにもなります。歩道はずれて歩かないようにします。道に不慣れな場合は地元のガイドさんなど、地理に詳しい人と歩きます。

4「動植物は採らない、持ち込まない、持ち帰らない」

海中も含め、自然の中で生きる多様な野生動植物は、小笠原固有の生態系の重要な構成員です。しかし中には繊細で傷つきやすく、過去に絶滅したり、現在、絶滅の危機に瀕している動植物など少なくありません。この貴重な生態系を保全するため、動植物は持ち込まず、持ち帰らず、野生動植物を採ったりしません。

5「動植物に気配りをしながらウォッチングを楽しむ」

小笠原ではホエールウォッチング、バードウォッチングなどの自然観察が盛んです。こうした楽しみ方が、いつまでも続けられるよう、できる限り動植物に影響を与えないような見方や楽しみ方を心がけます。

6「サンゴ礁等の特殊地形を壊さない」

サンゴ礁などは小笠原の自然を語る大切な歴史の証人です。地形について学び、大切にします。

7「来島記念などの落書きをしない」

小笠原では看板類が少なく、自然と一体となったすっきりとした景観が魅力の一つです。来島記念などの落書きは、この美しい景観を傷つけることになるので、絶対しません。

8「全島キャンプ禁止となっているので、キャンプはしない」

小笠原では全島でキャンプが禁止されています。自身の生命や体の安全はもとより、小笠原の美しい自然と静かな村民生活を守るためにも、宿泊には旅館や船を利用しキャンプは絶対しません。

9「移動は、できるだけ自分のエネルギーを使う」

島内では、なるべく自動車に頼らず、できるだけ徒歩や自転車など自力移動を心がけ、のんびりと小笠原を楽しみます。

10「水を大切に、トイレなど公共施設をきれいに使う」

小笠原では水は大変貴重でかけがえのないものです。水は大切に使い無駄にしません。また、トイレをはじめ、公共施設の汚れや破損は、ちょっとした不注意が原因になります。後から使う人達が不快にならないよう一人ひとりが気をつけて使います。

平成11年環境庁(現環境省)自然保護局  
南関東地区国立公園・野生生物事務所 策定

一般社団法人小笠原母島観光協会

〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

tel 04998-3-2300

fax 04998-3-2200

http://www.hahajima.com

e-mail info@hahajima.com

探照灯基地跡

東港探照灯下砲台

東港

山崎の鼻

館山

六本指地蔵

庚申岳

探照灯基地跡

庚申塚

北港

南港

石彫りのお地藏さが祀られています。右側の地藏尊の右手の指が6本あることから六本指地蔵と呼ばれています。

旧日本軍が設置した大型探照灯が塚の中に据えてあり、外に移動できるようにレールが引かれている。長い年月で風化し、今では残骸となっています。  
沖港から 約 25 分

標識板から道を下ると旧日本軍の高角砲がジャングルの中に3門残存しています。  
沖港から 約 20 分 + 道路から 約 7 分

大沢海岸

大沢海岸

北村小学校跡

母島西台線歩道  
北港～大沢海岸へ  
片道約40分

忠魂碑

衛星公衆電話の為  
100円硬貨のみ使用可

粗砂からサンゴダスト、磯の岩へと浜が変化していきます。波打ち際の岩では蟹やトビハセが波と戯れています。天気の良い日には正面に父島が、1月から4月にはザトウクジラを観察することもできます。

ポトスの湿地  
階段を下りると、その先に湿地帯が姿を現します。ポトスがタマノの木を覆っています。中には人の顔ほどもある大きな葉も見つかるはず。階段の途中から水が湧き出している場所もあり、湿地としての姿が残っているのはこの場所だけとなっています。

大沢民地跡(壊れた石臼)  
周辺を散策すると陶器などの生活用品が残っており、人の営みがあったことを伺うことができます。強制疎開の際、再び故郷の地を踏みしめることを楽しみに焼酎などを壺に入れ敷地内へ埋めていったそうです。

石畳  
かつて生活していた人たちが作った石畳が今も残っています。豊富な水を利用して農業を営んでいました。

端の橋  
返還直後、北港周辺はギンネムなどが生き茂り、盛んだった村の名残りもなく、ジャングルのようになっていました。当時大沢に行く道を探し、この橋を見つけた時には感慨深いものがあったようです。

北村小学校の開校は1887年(明治20年)。戦前母島には沖村にある沖村小学校とこの北村小学校の2校があり交流試合なども行われていたといわれています。製糖圧搾機のローラーを重ねた門柱が残り、生い茂ったガジュマルにメグロの姿も見られます。

母島列島で繁殖している陸鳥は、

- ハハジマメグロ (特別天然記念物)
- アカガシラカラスバト (天然記念物)
- オガサワラノスリ (天然記念物) ●オガサワラカワラヒワ
- ハシナガウグイス ●オガサワラヒヨドリ ●イソヒヨドリ
- トラツグミ ●メジロ の9種です。

また、春と秋には

- ハクセキレイ ●ムナグロ ●キョウジョシギ ●ツバメチドリ
- カツオドリ などが渡ってきます。時には珍しい迷鳥も来ます。

観察ポイントは旧ヘリポート、評議平グラウンド、母島小中学校グラウンド、前浜、脇浜などです。珍しい鳥を探してみましょう。



## ハハジマメグロ

母島列島にしか生息しない特別天然記念物の貴重な鳥。小笠原村の鳥に指定されています。メジロよりやや大きく名前の通り眼の周りに黒い三角の縁取りがあります。集落内でも観察することができ、民家の庭の水場にもよく現れます。夜はつがい体が寄せ合う“接触就眠”という眠り方をします。



## アカガシラカラスバト

固有亜種の天然記念物で絶滅危惧種に指定されています。体は黒っぽく首から胸にかけては光沢のある玉虫色で、頭は赤みがかったブドウ色をしています。鳴き声が牛の声に似ていることから、昔はウシバトと呼ばれていました。



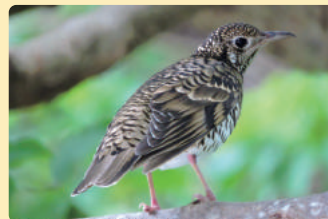
## オガサワラノスリ

小笠原諸島固有(亜種)の唯一の猛禽類であり、国の天然記念物にも指定されているタカ科の鳥。体長は雄で50～52cm、メスで53～60cmで、翼長は122～137cmほどです。内地で見られる“トンビ”よりもやや小型で、オオヒキガエルやネズミ、オガサワラトカゲやグリーンアノール、そして小鳥などを餌としています。



## オガサワラカワラヒワ

固有亜種で3月から9月頃、母島本島で見られます。5～10羽の群れで行動していますが、最近では数が減っています。ムニアオガンビなどの木の実や草の実を食べています。



## トラツグミ

戦後入ってきて留鳥となりました。夜中に物悲しげにヒョーと鳴いています。繁殖期にはヒョー、ホーと鳴くので島ではピーボードリと言われていました。



## ハシナガウグイス

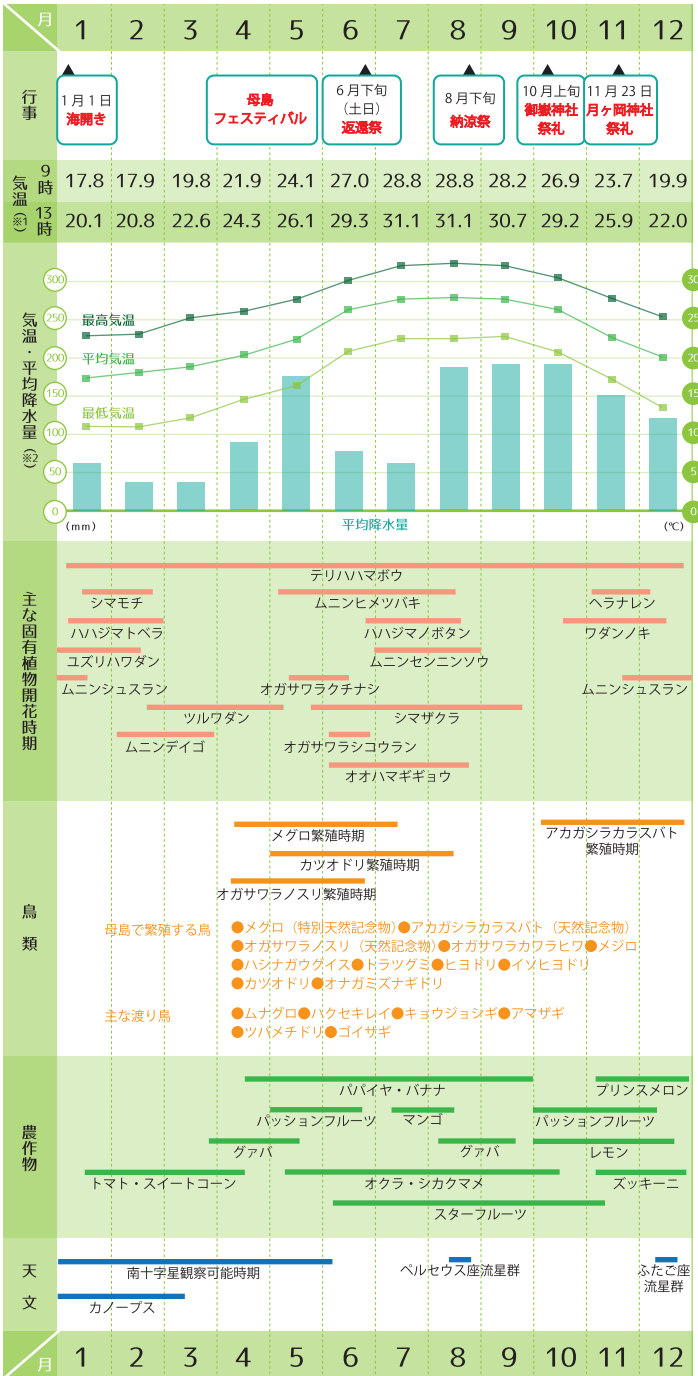
本州のもの比べてひとまわり小型です。林の中でじっとしていると一番近くまで寄ってくる鳥です。ホーホケツという鳴き方をします。



## カツオドリ

5月から9月頃まで繁殖の為に渡ってきます。双眼鏡を使うと6～7月頃、南崎小富士から向かい側にある鯉鳥島にヒナを見ることができます。海面に真っ直ぐに飛び込んで魚を捕らえる姿は見事です。





※1 母島には気象台がないため、気温は乳房ダムにて9時と13時に計測した数値です。【平成27年4月1日現在】  
 ※2 気温・平均気温は平成22年～平成27年の小笠原(父島)データ、平均降水量は平成22年～平成27年の母島データとなります。 注) その年の気象条件により植物・鳥類・農作物の時期は変化します。



World Natural Heritage Ogasawara Islands  
 世界自然遺産 小笠原諸島

小笠原母島フィールドブック

